

of Wollongong, Australia. Mr. Burri has extensive experience teaching and researching in Japan, Canada, and Australia. He gave a presentation entitled "An Insider's Perspective on Student Teachers Learning to Teach English Pronunciation." He claimed that the impact of language teacher education on cognition continues to remain inconclusive, especially in the area of pronunciation pedagogy. In order to study this question, he explored how the beliefs and knowledge of 15 postgraduate student teachers developed during a pronunciation pedagogy course offered at an Australian university. Following an overview of the study, he discussed findings in light of



the most prominent area of cognition change, native and non-native teacher cognition, and pre-service and in-service teacher cognition. One of his most important findings was that through their experience, teachers tended to change their idea of what the goal of teaching pronunciation was. At the beginning half the students thought accent reduction was or might be the goal of teaching pronunciation, while at the completion of the course over 80% disagreed with this notion. He concluded with implications for language teacher educators and for L2 instructors teaching pronunciation in their classroom. His findings indicate the importance of the role of English varieties and accents in the teaching and learning of English pronunciation.

研究会開催報告

Research on Language Learning (Project 2)

第3回 日時：2015年3月2日

講演者：岩居 弘樹 (大阪大学教授)

タイトル：「iPad と外国語アクティブラーニング—初級ドイツ語と多言語演習の実践事例」

第4回 日時：2015年6月24日

講演者：Mike Burri (The University of Wollongong)

タイトル："An Insider Perspective on Student Teachers Learning to Teach English Pronunciation"

研究活動報告

Project 3

前田 美子

7

「プロジェクト3：ファシリテーション・メディエーション研究」は、2014年11月に活動を始めた、本研究所の新しいプロジェクトである。「ファシリテーション」や「メディエーション」と呼ばれる、人間社会における関係性構築のための形態について調査・研究を行っている。プロジェクト設立の背景には、近年、教育・市民活動・企業活動等、多岐に亘る分野において、コミュニケーションのあり方、特に、相互理解の促進やコンセンサスの形成などを目的とした人間関係のあり方を模索する動きがあり、「国際共生」を研究するにあたり、この分野の研究は必須であるという問題意識がある。



以下に、これまでの主な活動を列挙する。

・ワークショップ「もしあなたが友達から打ち明けられたらどうする？～他人事ではない性被害～」

(2014年11月28日、大阪女学院大学)

大和屋浩子氏 (大阪女学院大学4回生) の企画で、性暴力被害者支援センター・ひょうごの金湖蓮氏を講師に迎え、性暴力をめぐる表現・表象・医療・支援制度等の問題について、15名の参加者を得て議論した。

・ワークショップ "Peace Activism in Korea and Northeast Asia: Intervention as a means of peacework"

(2015年5月15日、大阪女学院大学)

韓国で様々な平和活動にかかわっている Kaia Vereide 氏に、済州島における介入 (インターベンション) について紹介していただく。その後、本学在生を中心にした22名の参加者は、さまざまなレベルのコンフリクトにおける創造的な解決の方法などについて議論した。

・グローバルイベント「世界一大きな授業」

(2015年5月27日、大阪女学院大学)

世界の教育の現状を世界中で同じ時期に学び、教育の大切さについて考えるイベントを開催した。第1部では、140名の参加者を得て「世界一大きな授業」を実施し、第2部では、14名の参加者とそのファシリテーションの課題について議論した。第1部・第2部の企画・運営・ファシリテーションは、それぞれ、本学の学部生、大学院生が中心となって行った。

これまでの活動に見られるように、本プロジェクトの特徴は、研究所員などの研究者だけでなく、本学の在学生・卒業生や地域の人々の積極的な参画を促していることにある。今後も多方面に開かれたプロジェクトであることを目指していきたい。

研究会開催報告

ファシリテーション・メディエーション研究 (Project 3)

第1回 日時：2014年11月28日

ファシリテーター：金 湖蓮 (性暴力被害者支援センター・ひょうご支援センター運営委員)

タイトル：「もしあなたが友達から打ち明けられたらどうする？～他人事ではない性被害～」

第2回 日時：2015年5月15日

ファシリテーター：カイア・ベレイデ (The Frontiers Action Team member)

タイトル："Peace Activism in Korea and Northeast Asia: Intervention as a Means of Peacework"

第3回 日時：2015年5月27日

企画者：前田 美子 (大阪女学院大学教授)

タイトル：「『世界一大きな授業』のファシリテーションから学ぶ」